

医療と福祉の相互理解についてのワーキング

1 目的

地域で暮らす障害のある方の医療機関受診や健診等に関して、電話やオンライン診療により病院に行かなくとも受診できる仕組みや、病院の駐車場で診療待ちができる対応等、近年のコロナ禍において障害のある方への受診に対する配慮の取組が広がり始めている。

しかし、障害の特性や医療機関の状況により、障害のある方が診療や健診を受ける際に様々な場面で困難を伴うとの声が当事者や関係者より寄せられている。

本ワーキングでは、当事者、医療従事者、福祉関係者が病院での受診や在宅診療並びに健診時における課題や意見を出し合い、双方の理解をより一層深めることで、障害のある方が安心して受診できるような環境づくりについて検討する。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

ワーキングメンバー及び医療・福祉関係者から意見を伺い、医療面における現状を把握する。現状を踏まえ、調布市医師会にアンケートを実施し、アンケート結果から導きだされた課題を考察、検証する。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

メンバー（職名・敬称略）

座長	山本 雅章	（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団）
	西田 伸一	（調布市医師会）
	進藤 美左	（NPO 法人 調布市心身障害児・者親の会）
	伊藤 文子	（訪問看護ステーション あんあん）
	江口 正和	（調布市身体障害者福祉協会）
	愛沢 法子	（調布市視覚障害者福祉協会）
	井村 茂樹	（調布市聴覚障害者協会）
	江頭 由香	（調布市精神障害者家族会かささぎ会）
	秋元 妙美	（一般社団法人 障害者自立相談支援協会 C I L ちょうふ）
	栗城 耕平	（新樹会 地域生活支援センター 希望ヶ丘）
	円舘 玲子	（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 障害者地域生活・就労支援センター ちょうふだぞう）

4 事務局

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 ドルチェ
調布市障害福祉課

5 令和4年度のワーキングにおける成果目標

受診等に際し、障害当事者及び医療側の現状や課題を把握する。また、調布市医師会にアンケートを実施し、その結果から相互理解において何が必要なのかを検証する。

～第2回ワーキング～

日時：令和4年9月30日（金）18時～20時

場所：文化会館たづくり 601, 602 会議室

参加者：委員 11 名，事務局 6 名

内容：①前回のワーキングの概要

②当事者及び当事者家族向けアンケートの概要について

③次回以降の日程について

主な意見

①アンケート項目・全般について

アンケートに盛り込みたい、聞いてみたい項目

- ・訪問診療やリモートでの受診など具体的な診察方法
- ・通院の際の同行者の有無
- ・障害種別ごとの質問項目

アンケート全般について

- ・本アンケートの趣旨・目的・背景などが鑑文で説明があった方がよい。
- ・ご負担がないようトータル20分程度で回答できた方がいい。
- ・回答の選択肢を増やし、詳細な意見や気持ちがわかるようにできるといい。

②かかりつけ医の定義について

- ・生活全般にわたって健康状態を診てくれる医師を指す。
- ・精神障害のある方については精神科の主治医がかかりつけ医とは定義できない。
- ・かかりつけ医は大学病院でも地域のクリニックでも該当する。診療科目も問わない。
- ・本アンケートでのかかりつけ医の定義を冒頭の文章で丁寧に説明する必要がある。

③対象者について

- ・アンケートの回答については障害によってご自身で回答できる方、家族や支援者に代筆・代理で返答していただく方など様々。
- ・精神障害のある方についてはご本人と家族の意向や考えが異なることで、医療に繋がらないケースがある。そのため実態把握のためには家族が回答する必要性がある。回答者がご本人なのか家族なのかを聞いた上で、家族にもアンケートに回答してもらいたい。
- ・知的障害のある方は本人と家族の意向が合致している場合が多いが、精神障害のある方は意向が異なることも多い。アンケート結果でその差異がわかると思われる。

④発送数について

- ・ペーパーベースで返信用封筒をつけて郵送する。障害福祉課で障害のある方の名簿から1000人を無作為抽出する。障害や年齢分布を加味し、障害種別や年齢に偏りがないようにする。
- ・重度心身障害（児）者や医療的ケアが必要な方も含め、アンケートを依頼する。

⑤回答・集計方法について

- ・最近はQRコードでの回答がほとんど。用紙だけでなくQRコードもつけた方がいい。

- ・QR コードなら 50 代以下の方なら対応可能だと思う。
- ・〇をつけるだけで回答できるものが多い。
- ・Google フォームだと解析もスムーズである。

⑥情報保障について

- ・視覚障害のある方で家族がいない場合、ガイドヘルパーよりも相談員（計画相談）に依頼する方が無難かと思う。セルフプランの方などは回答する人がいないかもしれない。アンケートが届いていること自体気が付かない人もいる。
- ・配布や回答には相談支援事業所にも協力してもらえようようにしたい。

まとめ

今回のワーキングでは「かかりつけ医」の定義について委員で統一見解を図り、アンケートの内容やとり方について時間をかけて話し合った。アンケートを通して当事者側の意向を確認すると共に、病院側の受診受け入れ促進要件、阻害要件を明らかにしていく。医療機関の見える化を図り、医療関係者に障害理解の促進を図っていったら良い。

次回の 12 月のワーキングまでに当事者対象のアンケートを作成する。事前に案ができたならメール等で委員の方に送り、意見を頂く。医療機関対象のアンケートの案は西田先生に作成を依頼する。令和 4 年度内にアンケートを発送し、次年度分析する予定。当ワーキングは 2 年間の期間で実施する。3 回目のワーキングは 12 月で日程を調整する予定。

～第3回ワーキング～

日時：令和4年12月9日（金）18時～20時

場所：文化会館たづくり 303, 304会議室

参加者：委員8名、事務局8名 傍聴1名

内容

- ①医療従事者向けアンケート内容について
- ②当事者及び当事者家族向けアンケートの内容について
- ③次回以降の日程について

主な意見

①医療従事者向けアンケート内容について

- ・同じアンケートで障害別の内容を盛り込むとまとまりがなくなるのではないかな。例えば比較的医療に繋がりにくいと思われる知的障害のある人を中心にしたアンケートにしてはどうか？
- ・今回のアンケートは調布市医師会所属の病院（医師）を対象にする。
- ・貴重な機会なので他の障害に対する質問を入れても良いのでは。聴覚障害の方から以前障害福祉課にバリウム検査の拒否等で意見が寄せられていた。
- ・精神障害のある方を対象にした質問については、内科の受診で自身の言葉で説明や病感を伝えることが難しいため、質問項目を追加してほしい。医療機関側が説明やコミュニケーションで困った例や難しかった例を聞いてみたい。
- ・医師会にアンケート調査できるのは画期的なこと。今回はすべてを網羅するアンケートではなくても、結果から見えてくることが多くあると思う。
- ・医療側の心情や医師の気持ちを聞いてみてはどうか。実際は診察したいと思っているが課題がある等意見が出てくるかもしれない。

②当事者・家族向けアンケート内容について

- ・「かかりつけ医をもたない」の項目について、病識がない精神障害の方と家族で意識が異なる場合があるため、家族か当事者どちらが回答したかを、わかるようにしてほしい。
- ・精神障害のある方については、受診の阻害要件として、病識がないことや精神的負担感の大きさ、また自身での病状説明するのが難しいことが考えられる。そのため、アンケート案ではそれぞれの阻害要件を理由とする項目の追加をお願いしたい。
「相談内容を医師が理解してくれない。」または、「相談内容を医師に適切に説明できない。」
「健診内容が負担だから」「忙しいから」
- ・実際にアンケートに答えた人に意見を聞いたところ、質問に答えた後、次の質問がどこに飛ぶなどの指示があるとわかりやすいとのこと。また、グーグルフォームでネット上の回答ができるなら、自動で次の質問に飛ぶようにできたら良い。
- ・健康診断の項目で、作業所の健診も受けるが市の健診も受ける、または受けたいができない等回答が複数ある場合もありえるので、回答方法に工夫があると良い。
- ・自由記述欄があると良い。
- ・医療的ケアが必要な障害児など、成人になった時点で内科に移行できず医療と切れることもあるので、当事者の年齢をクロス集計できると良い。併せてかかりつけ医が何科かわかると良いのでは。
- ・かかりつけ医の説明についてわかりにくい点があるので、表現を工夫した方が良い。
- ・かかりつけ医の項目では複数回答も可とし、自由記述もあると良い。

- ・障害種別を問う項目で選択肢が「のみ」となっているが、複数回答が必要な人もいるのでは。
- ・発達障害の方でもわかりやすいように回答の「やや」を「少し」という表現にできないか。
- ・かかりつけ医の良い点については、自由記述や複数回答もあると思われる。

まとめ

- ・医療従事者向けのアンケートは、それぞれの障害種別で大項目を設け、各障害のある方の医療アクセスの状況について伺う。
- ・当事者向けのアンケートについては、今回の意見を元に修正し、再度ワーキングメンバーにメール等で送付し確認いただく。アンケートは1月末までの発送を目指す。
- ・集計及び統計については、大学の専門分野の講師から意見をいただく。
- ・集計が終わるタイミングで第4回のワーキングを実施する。

これまでの到達点

障害当事者向けのアンケートについては、2月初旬に市内在住の障害手帳をお持ちの方から1000人を無作為抽出し、発送が完了した。回答締切は2月22日水曜日。

医療従事者向けのアンケートに関しては、アンケートの質問項目についての意見出しを行った。次回のワーキングにて校正をしていく。

今後の展望と課題

令和4年度内に医療従事者向けアンケートを発送、その集計を行う。

次年度のワーキングでは当事者及び医療従事者向けアンケート結果を踏まえて、当事者の受診について受け入れ促進要件や阻害要件を明らかにしていき、解決方法等について検討していく。